

文鳥舎ことのはライヴ

牧野信一作品 朗読会

2005年 11月5日(土)

開演 午後5時 (開場 午後4時半)

朗読 薮 英治

対談 池内紀 VS 古井由吉

会費 3,000円 (ドリンク付) ・要予約

終演後懇親会(午後7時より)

会費 別途 3,000円

会場 文鳥舎 (JR三鷹駅南口徒歩約5分)

電話 0422-79-3777

E mail : bunchou@parkcity.ne.jp

第十回 「鬼涙村」

池内紀(いけうち おさむ 独文学者・文筆家)
東京大学を定年前に退官後、翻訳家として、
玩味ある飄逸なエッセイの書き手として、山
と温泉を愛する旅人として幅広く活躍中。主
な著書に、『ウィーンの世界』、『カフカ事
典』まで自選集成全八巻『池内紀の仕事場』、
『諷刺の文学』(七八年亀井勝一郎賞)、『ゲ
テさんこんばんは』(〇一年桑原武夫文学賞)
など多数。主な訳書に、『カネッティ』、『ゲ
イト』、『聖なる酔っぱらいの伝説』、『ゲーテ
アウト』(九九年毎日出版文化賞)、『カフカ
小説全集』(〇二年日本翻訳文化賞)など。

古井由吉(ふるい よしきち 作家)
七二年『香子』で芥川賞を受賞。内向の世代
の代表的作家であり、生の深層に分け入る重
層的作品は現代文学の到達点と目され、八〇
年『栖』(日本文学大賞)、八三年『種』(谷崎潤
一郎賞)、八七年『中山坂』(川端康成賞)、九〇
年『仮往生伝説』(読売文学賞)、九七年『白
髪の唄』(毎日芸術賞)など多数の文学賞を受
賞。ほかに『窓』、『聖耳』、『聖なるものを訪
ねて』など著書多数。ムシールの翻訳など独
文学者としても知られ、近年は、自作の朗読
など多彩で旺盛な文学活動を展開中。

薮 英治(しとみ えいじ 俳優)
シェイクスピア・シアターにて多数の舞台
に出演後、現在フリーで活躍中。牧野作品以
外にも、中原中也の詩、チェーホフの短篇な
どに取り組み、ディケンズやO・ヘンリー等
英米翻訳小説の朗読会(グローブ文芸、ヴィ
オロン)にも継続参加中。最近、音楽会にて
シューベルトの歌曲の歌詩朗読担当、またニ
ューヨーク・フィラデルフィアにて、ポーの
詩朗読のほか、伝統芸能「うしろ売り」の口
上披露など、内外の文芸作品の「声」による現
前にも活動の場を広げている。



南口より中央商店街を南に直進徒歩5分ほど
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-32-3
グリーンバルコB1



文鳥舎

HP から座席確認、ご予約いただけます。

主催 文鳥舎 <http://www12.plala.or.jp/bunchousha/>

協賛 「続・西部劇通信」 <http://www.connec.co.jp/makinos/>



牧野信一 (1896-1936)

明治29年、小田原生。処女作「爪」で文壇に登場。出世作「父を売る子」を経て「鱗雲」「ゼーロン」「鬼涙村」など多数の傑作を生み出すも、昭和11年、小田原の実家で自死。